

## 様式 2

### 全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：農学教育部会

部会長名：白井 康仁

作成者名：白井 康仁

#### 概要（2000字）

農学教育部会では、「食と健康」前期、後期にそれぞれ 1 コマと「生物資源と農業」後期 2 コマを担当している。それぞれ、4～5 名の教員によるオムニバス形式で、平成 24 度は、以下のような内容の講義を行った。

「食と健康」では、人の健康を支配している食物について、それを科学的理解し、その生産に関心を深めることを目標として、前期（木曜 1 限）には食品の微生物危害、家庭における食品衛生、貯蔵条件による機能性成分の変動、食品因子によるアレルギー抑制効果、腸管を介した免疫調整機能を有する食品因子、遺伝子とタンパク質と遺伝子組み換え作物、農薬、お肉と牛乳と卵の講義を、後期（火曜 2 限）には、食の安全性と機能性、微生物の生理・代謝と利用、植物の色・香り、動物と家畜、食肉偽装と DNA 鑑定、農薬の安全性評価などの講義を行った。

後期月曜 1 限の「生物資源と農業」では、食のため有史以前から利用し、改良を加えてきた多様な生物の中心である植物資源と昆虫資源の利用、遺伝資源の起源と探索、それらを取り巻く環境である土壌について紹介し、農業の基礎を理解するため、植物、土壌、昆虫に関する講義をおこなった。また、後期木曜 1 限の「生物資源と農業」では、食料や工芸の材料となる資源植物（作物）、エネルギー資源植物の特性と品種改良、効率的な生産を支える栽培技術や栽培環境について紹介し、グローバルな農業・食料・環境問題についての理解を深めるため、りんご、コーヒー、熱帯植物、森林資源と林業に関する講義を行った。

自己点検評価に関しては、すべての授業担当者からの回答は得られなかったものの、概ね良好であった。例えば、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮するため、アンケートなどを実施に翌年あるいは次回の講義に反映させているなどの工夫が見られた。また、平成 24 年度では、成績の付け方（必ず小テストを行い、それをもとに成績をつける）や遅刻者に対する対応など各教員間の不均衡も是正され、成績評価、単位認定がより適切に実施されるようになった。この点については、来年以降も徹底していきたい。さらに、講義の中で一番印象に残った講義内容を聞くと、それぞれの学生が実に多様な回答をしたことから、オムニバス形式の利点、即ち、「多様な学習の達成度や満足度に対応できる」点が生かされていた。その反面、同タイトルの講義であっても、教員の変更に伴い学習内容が異なることから、今後は講義間、学年毎の学習内容の統一性などの工夫が必要と思われる。

様式2 (続き)

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。  
(観点に係る状況)

はい

根拠資料

昨年のアンケート結果を考慮し、学生の多様なニーズに合わせて講義スタイルを修正した結果、講義の最後では講義形態に対してさらなる要望はほとんどなくなった。また、様々な、学生がそれぞれ異なる講義内容に興味を示した。

5-2 【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

(観点に係る状況)

概ねできている

根拠資料

レポートを書かせ、次の講義で対応するなど対話形式の講義の工夫が認められた。しかし、その一方で一方向性の講義で終わったものもある。

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。  
(観点に係る状況)

はい

根拠資料

小テストレポートを必ず実施し、それをもとに成績をつけている。出席状況や受講態度などの平常点に対する評価も各教員間で不均衡がないよう周知している。

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。  
(観点に係る状況)

はい

根拠資料

シラバス

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

(観点に係る状況)

はい

根拠資料

シラバス及び講義中に教員のメールアドレスを公開し、オフィスアワー中に対応している。

5-3 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

はい

根拠資料

共通教育全体として、あるいは教養原論として、規約に定められている。

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

(観点に係る状況)

はい

根拠資料

小テストレポートを必ず実施し、それをもとに成績をつけている。また、問い合わせのあった学生には小テストなどの点数を公開している。

## 基準6 学習成果

6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

はい

根拠資料

アンケート

## 基準7 施設・設備及び学生支援

### 7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。  
(観点に係る状況)

概ね良好であるが改善の余地あり

#### 根拠資料

教室の改修があり、学習環境はよくなったが、遅刻者が前から講義中の教員の前を通らないと入室できなかったり、ハンドマイクがないなど改善の余地がある。

### 7-2 【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習、課外活動、生活や就職、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。  
(観点に係る状況)

はい

#### 根拠資料

シラバス及び講義中に教員のメールアドレスを公開し、オフィスアワー中に対応している。

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。  
また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。  
(観点に係る状況)

はい

#### 根拠資料

学生支援に関する学生のニーズを把握するため、アンケートを実施している。また、シラバス及び講義中に教員のメールアドレスを公開し、参考文献などの問い合わせのあった学生には対応している。